

2021 年度支部活動【中部支部】開催報告 「日本語教育でプレイフルな学びを創るーBTS モデルで考える」

主催：公益社団法人日本語教育学会
開催日：2021 年 12 月 5 日（日）13：30-16：30
会場：オンライン（Zoom）
参加人数：54 名（会員 34 名・一般 20 名）

12 月 5 日（日）に中部支部活動「日本語教育でプレイフルな学びを創るーBTS モデルで考える」を、オンライン（Zoom）で開催しました。当日は、講師の同志社女子大学名誉教授の上田信行先生、鼎談者の犬飼英男氏（名古屋 YMCA 日本語学院）、林工三氏（星城大学留学生別科、岐阜県地域日本語教育コーディネーター）をお迎えし、中部エリアの方だけでなく、全国各地、また海外からの参加者も含む 54 名の方とともに、有意義な時間を過ごすことができました。

前半は、「心がおどるようなワクワク、ドキドキ=プレイフル（playful）」を実際に体験しようということで、参加者全員で音楽に合わせてダンスをするところから始まりました。突然の呼びかけでしたが、皆さん笑顔で身体を動かし、画面越しにも楽しんでいる様子が伝わってきました。身体と心がほぐれたところで、上田先生によるご講演。School から Sky へと広がっていく 5 つの「Learning Scapes」と、それを創り出すためにどんな心構え（mind set）でいたらよいか、また上田先生が提唱されている BTS モデルとの関わりについてお話しいただきました。続いて、教師の mind set や日本語教育の現場での Learning Scapes について鼎談がなされ、その後、ここまでをスクライビング（振り返りのためのイラスト）で振り返りました。

後半は、ブレイクアウトルームに分かれて、それぞれの実践について、Learning Scapes に照らして振り返るとともに、今後どのような取り組みができるかということ、初めは 2 人で、次に 5 人で話していただきました。各グループから出された様々な取り組みや質問等は、padlet を用いて全体で共有し、その後質疑応答の時間を設けました。上田先生からは、新しいアイデアを創るには、「なぜ」「どうして」と問いかけることが重要であり、それによって創造的な clash が起こせるというお話がありました。最後に今日の活動全体を、スクライビングと RTV（リアルタイムビデオ）で振り返り、まずは「できるところからやってみよう」と多くの参加者が考えるきっかけになりました。

事後アンケートには、早速取り組んでみたい、よい刺激になったというコメントが多く寄せられ、多くの方が今回の支部活動に満足したとの回答をしてくださいました。この場を借りて、本支部活動にご参加くださった皆様、そしてご協力くださった関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

（報告者：支部活動委員：松尾憲暁・山本裕子、支部活動運営協力員：川口直巳・近藤有美）

